## *Ça va?* ⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇ 江戸っ子 ⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇Junko Higasa

毎年、私は鶯餅と桜餅が出る 2 月と海風で夏を感じる 8 月に「日本人である」と再認識するが、今年はそれがやってこなかった。それというのも殆ど T.V.番組を見ないどころか、必ず見ていたニュースまで見なくなったせいだと自己判断した。ニュースはネットでチェックしたが、やはり音声動作から社会を見ないと日本人意識が薄れる。

そこで私は振り返る。パリでは顔立ちから間違いなく日本人だと判断された。フィレンツェでは「英語か日本語か？」と問われた。これもまだよし。ところが後姿となると外国では現地語で声をかけられ、日本では「外人？日本人？」とささやく声が聞こえる。今まで深く印象に残っているのは、イタリアで遠足に来ていた小学生の「日本の女性だ」「いや、イタリア人だ」という背後の論争と、神楽坂で日本語で話しかけられて振り向くと「あれ？英語かな？」とマジ日本人に言われたことである。外見はどうでもいい。それよりも外国で気がつくと周りに誰も日本人がいないという私の行動形体である。つまり日本人観光ルートから大幅に外れた行動をしていることになる。それも自分の個性として嫌いではない。なにしろ私は地上を歩いている人間であれば「なに人か」なんて殆ど意識しない性質であるから。ただ毎年自分にやってきた「日本人である」意識がやってこなかったことが「根無し草」の心配をもたらす。

さらに私は考える。「江戸っ子」という言葉を。本来江戸っ子とは「江戸」に三代続けて住んでいる人を指す。そういう意味では私の母方は少なくとも四世代は住んでいるから「江戸っ子」と言えなくもないが、上記のような日本人である私は自分を「江戸っ子」という勇気はなく「東京人」と称する。そしてその東京人が「江戸っ子」という言葉を感じるのは、地元民が結集して盛り上がる祭りの時期ではなく正月である。同じ場所を歩いているのに普段は目に止まらないその人たちに気付くのは新年である。それはきっと街も人も日常の煩雑から逃れて自然体に戻るからではないだろうか？

ある正月、神田を歩いていて「まさに地元の人の顔」にすれ違ってハッとしたことがあった。「ああ、これぞ江戸の顔」あるとき清澄界隈で数人が立ち話をしているのを見て「ああ、地元の人だ、江戸っ子だ」と感じたこともあった。また上野界隈でも同じ。純然たる江戸っ子はほとんどいなくなったけれど、正月のくつろいだ街と無防備な人の雰囲気は江戸的東京人を大勢の中から抽出する。かつて私自身も東京隣接県の料亭で「東京の人ですか？」と問われ「わかりますか？」と返したところ「わかります。やはり東京の人は雰囲気が違いますから」と言われたことがあるが、じわじわと染み込んだ土地の風は自然と滲み出るものらしい。果たして「日本人か外人か？」と訝しがられる自分は今なお少なくとも東京色を放出しているだろうか？と考える。

江戸っ子は粋である。意地もあるけれど、マニュアルなんかなくても、威張らず卑下しないさりげない心遣いを知っている。現代は本当の江戸の心意気を持つ人が少なくなった。それは環境の変化もあるかもしれない。パリほど人種のるつぼと化していないにしても。そういえば日本で生まれ育った日本人より、外国人であったドナルド・キーンさんのほうがよっぽど日本人だ。〇〇人とはその国の文化を受け入れることである。フランス人になったカルラ・ブルーニさんにしても、単なる国籍取得ではない。

クリスマスを祝って、年末に寺の除夜の鐘を聞き、新年に神社へ詣でる日本的調和文化の中で、「江戸っ子気質」は存続してほしいもののひとつである。(2012.12.26)

⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇ ***Ça va, merci. Et toi?***